高性能住宅 vol.699 Q&A

基礎断熱した床下のカビ㊤

シックハウス原因

本当は知らないだけかも

Q 昨年も北海道住宅新聞に掲載されていましたが、7、8月になると基礎断熱した床下のカビのにおいが気になるという苦情を初めてもらいました。いままでそういった例はなかっただけに少々ショックです。どうしたらいいでしょうか。

A…この問題を記事で取り上げたのは去年の8月5日号と9月5日号。ちょうど1年前ですが、この間に新しい解決策が見つかったわけではありません。ただ、この間に2点、少々問題だなと思うことがあったので、あえて3たび取り上げました。

ご質問に答える前に、その2つの問題を説明したいと思います。

まず1点。「わが社は全然だいじょうぶ」とおっしゃる住宅会社の方がいますが、その言葉に疑問を感じたのです。

というのも、工務店の社長さんやハウスメーカーの担当者などは床下に潜る機会はあまりなく、現場を良く知っているのは大工さんや設備工事などの方々。その大工さんにある取材の時に床下の話になり、床下を開けた大工さんが『とてもいい状態です』と話した床下は、確かに乾燥していましたがややカビくさかった。さらに大工さんに聞くと、多少カビくさい床下はあるというのです。

"カビは全くない"と頭から思い込んでいませんか？

もう1点は研究者の方のコメントでした。「床下の温度を維持していればだいじょうぶ。換気などしたら逆効果」とある研究者の方が語っているのを目にしたのですが、これは説明不足だと思ったのです。

床下に新鮮空気を送り込むという意味の換気は必要ないでしょう。しかし空気を動かす必要はあるのです。そのために一番安全な方法は、カビ臭いかもしれない床下の空気をファンで屋外へ排気することです。

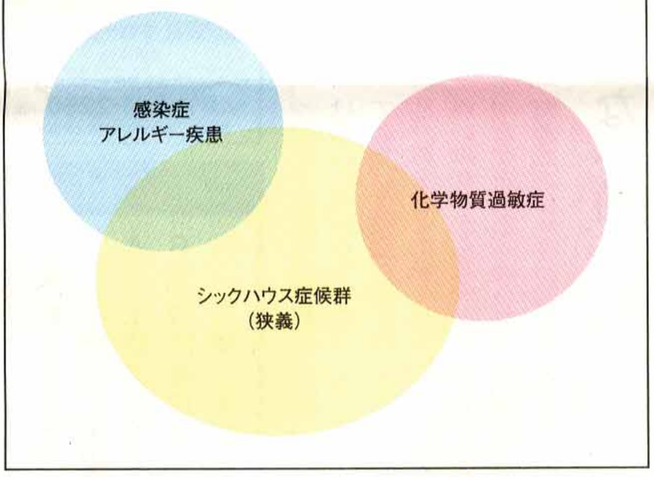
カビ臭さの度合いにもよるのですが、住んでいる方も床下を何かの理由で開けない限りカビには気づきません。また暖房シーズンになるとカビ臭さはかなり収まります。北海道では夏だけの問題なのです（冬場の結露によるカビは高断熱・高気密では起きません）。

カビは一般の方にはさほど有害ではありませんが、呼吸器系の病気を持っている方、例えばぜんそくにはとてもよくないのです。鼻炎にもよくないと言われています。肺炎の心配もあります。これはホルムアルデヒドなどによるシックハウス症候群と同じで、健康被害が起きる人と起きない人がいる、カビの発生している環境から離れると症状が治まるまさにシックハウスの原因の1つです。

シックハウス症候群の原因と考えられる主な室内汚染物質

生物由来の汚染物質	細菌、真菌（カビ）	感染
	細菌からの毒素（エンドトキシン） 真菌からの毒素（マイコトキシン）	刺激物質
	ダニ、真菌、昆虫、ペットやその排物 植物構成成分（花粉アレルゲンなど）	アレルギー
化学的な汚染物質	硫黄酸化物、窒素酸化物（暖房） ホルムアルデヒド、揮発性有機化合物 （VOC：トルエン、ベンゼンなど）	刺激物質 一部アレルギー
浮遊粒子状物質 タバコの煙	各種粉塵など ニコチン、ベンゾピレン、 多環芳香族炭化水素（タバコの煙）	刺激物質

シックハウス症候群（SHS）の分類



西條泰明先生（現旭川医科大学健康科学講座准教授）の資料